

バランスの取れた研究環境を築くために ～年会における発表者等の属性調査～



属性調査とは？

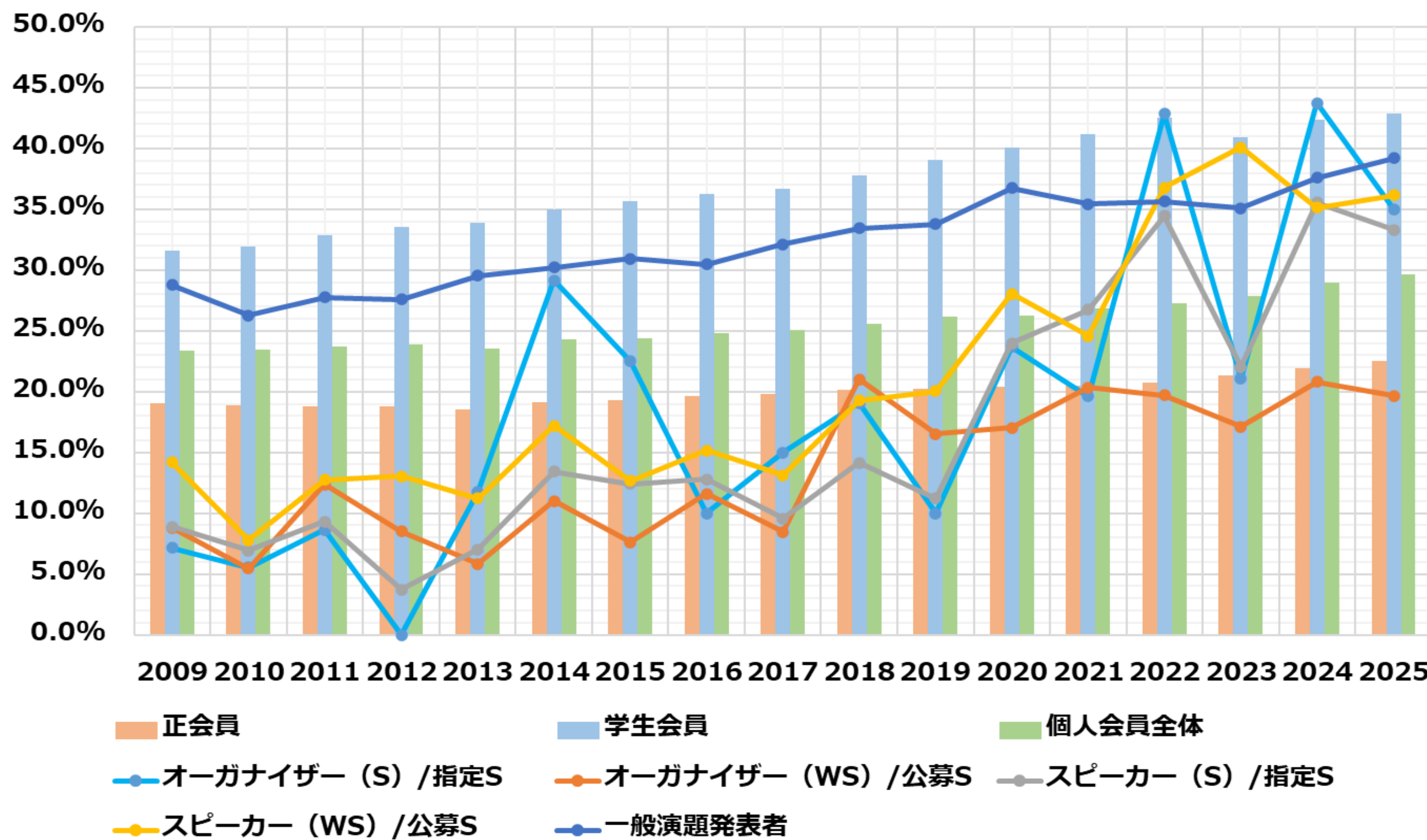
研究発表の場においては、性差にかかわらず研究者としてのビジビリティ（可視性）を高めることでその後の研究機会・キャリア獲得などに結び付けることが期待される。シンポジウム・ワークショップのオーガナイザーやスピーカーの多くは正会員であることから、その男女比率が学会会員における男女比率との近似値になることが望ましい。

「シンポジウム・ワークショップなどのオーガナイザー・口頭発表者における女性比率は、学会員全体における女性比率と比べて低いのではないだろうか」という疑問をもとに、年会発表者等が属する性、年齢、職階、発表カテゴリー等（属性）について、2009年度から継続調査を行っている。

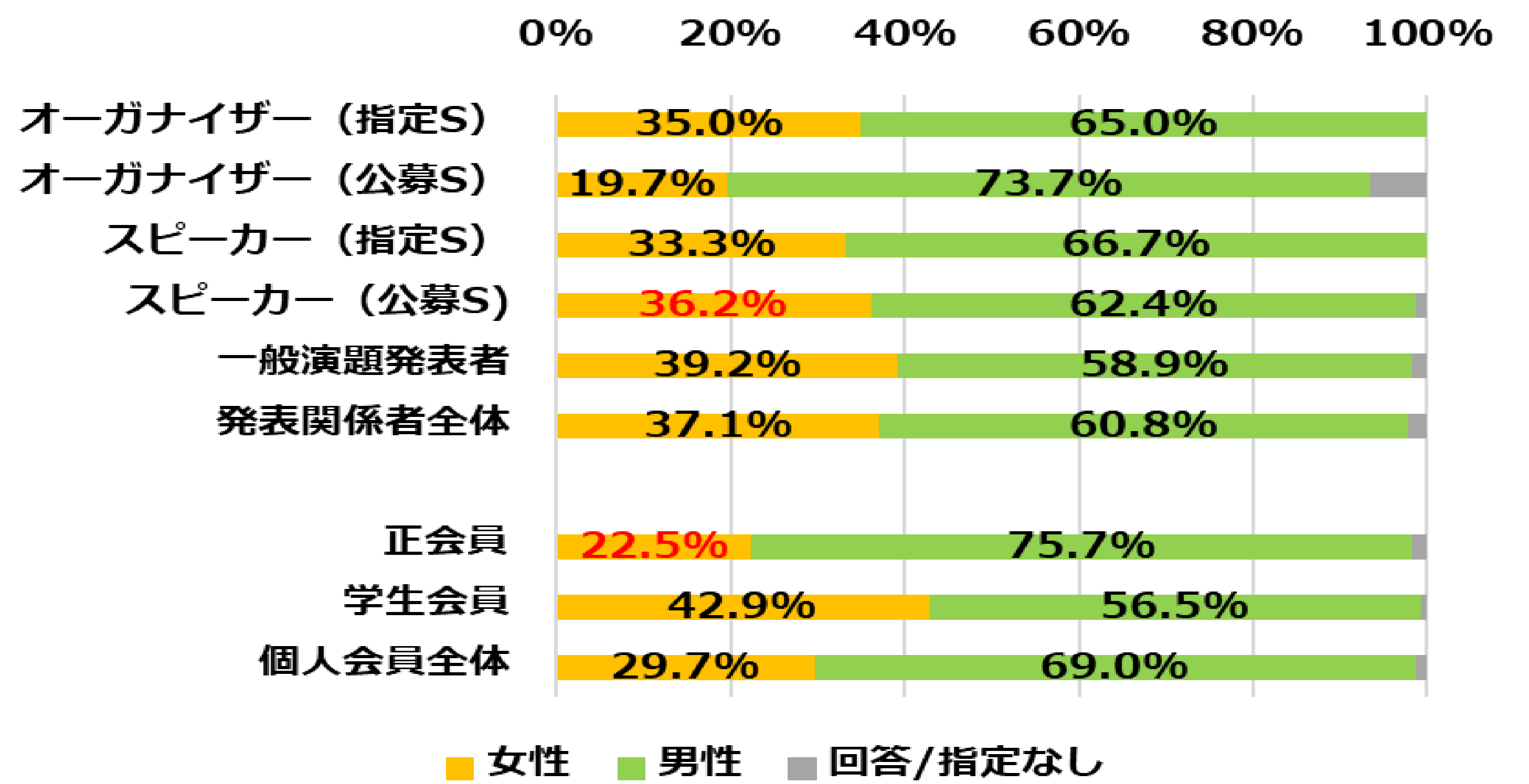
発表者が決まるプロセスの違い

- **指定シンポジウム（指定S）**
オーガナイザー：年会側が検討・依頼（他薦）
スピーカー：オーガナイザーが検討・依頼（他薦）
- **公募シンポジウム（公募S）**
オーガナイザー：応募者（自薦）の中から選抜される
スピーカー：オーガナイザーが検討・依頼（他薦）
※ワークショップがある年は公募シンポジウムと同様のプロセス
- **一般演題発表者**
自発的な申し込み（自薦）

日本分子生物学会 女性比率の推移

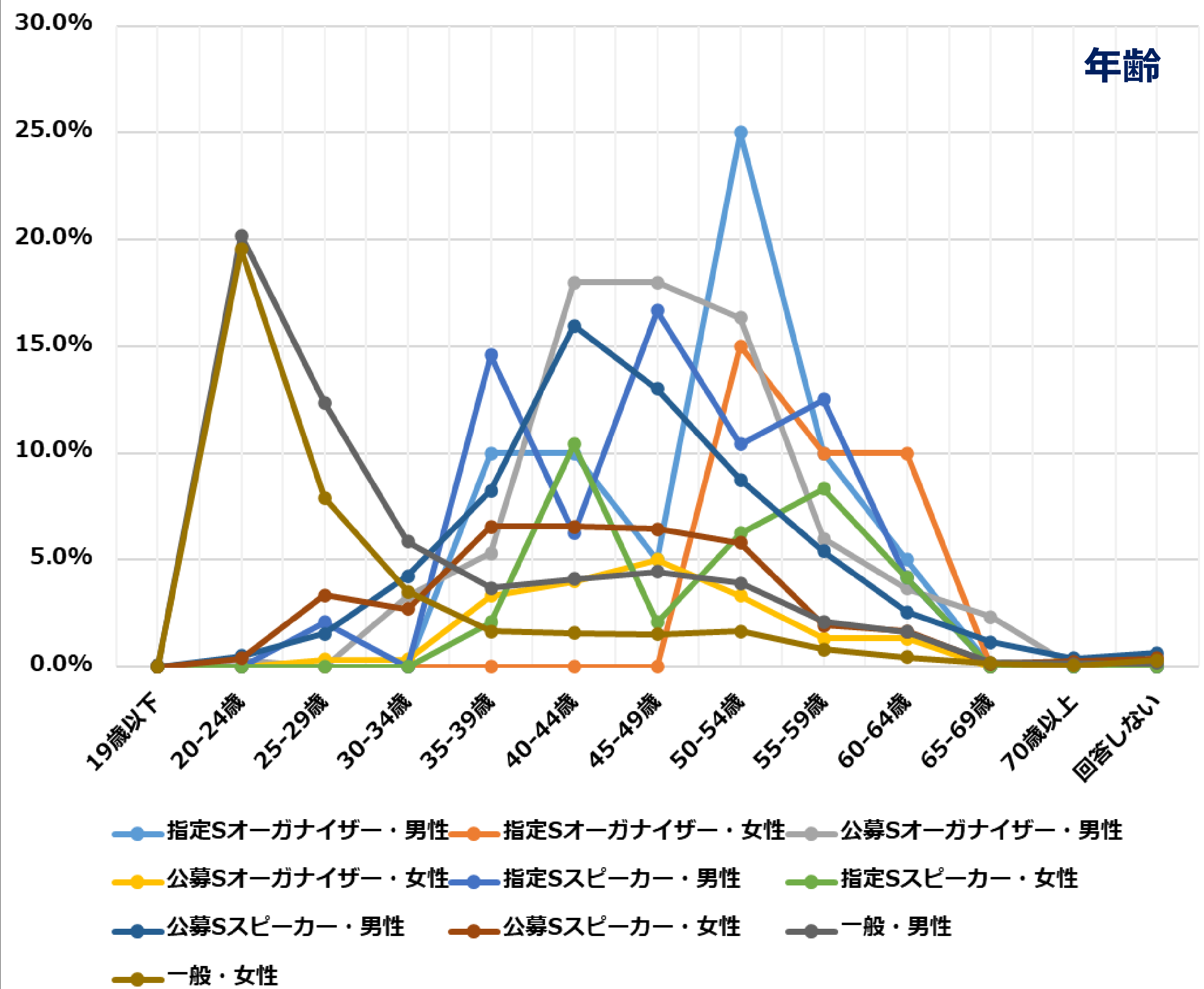


各カテゴリにおける女性比率の比較（2025年）

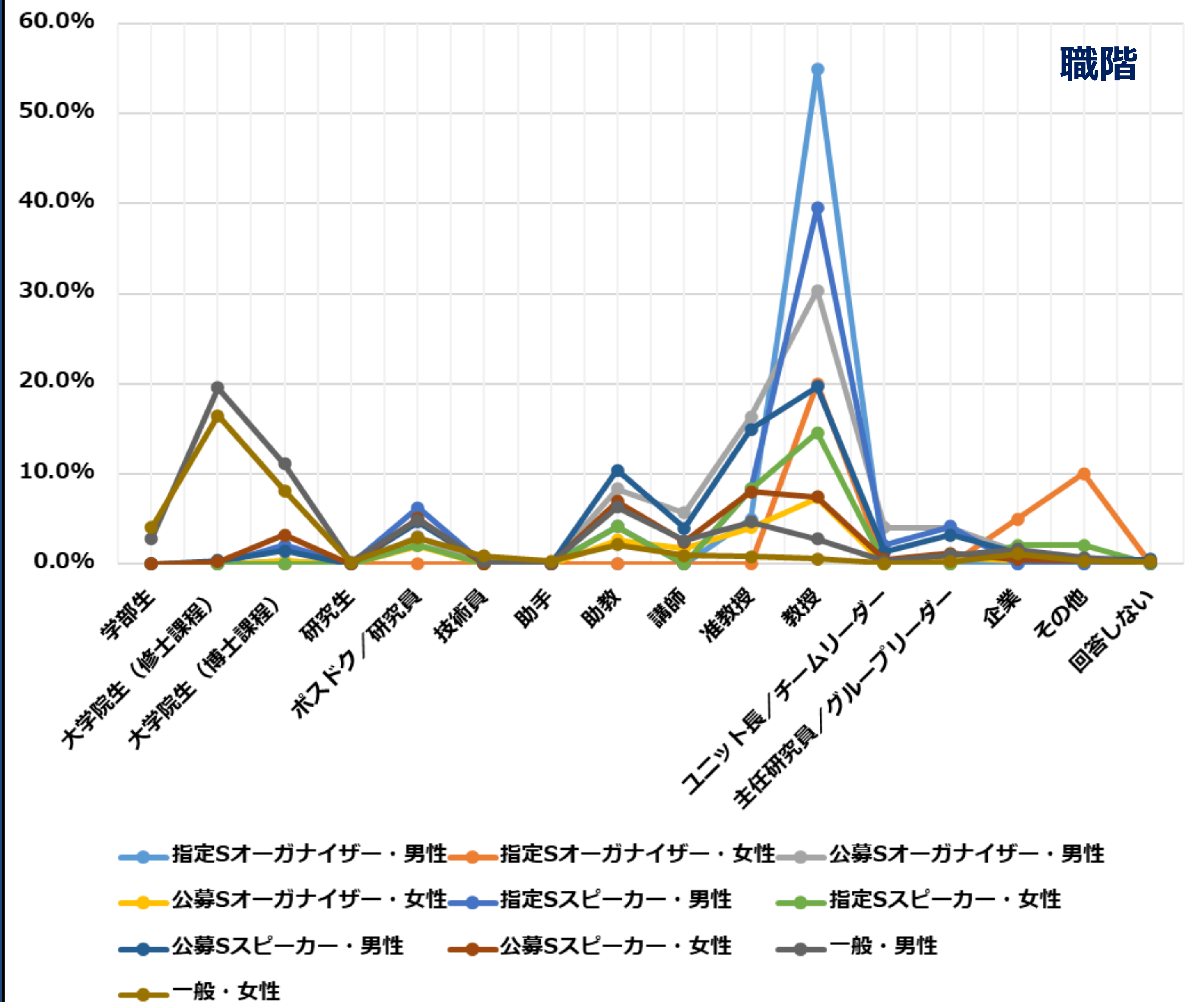


年齢・職階グラフにおける数値は、各カテゴリごとに100%とした時の割合を示す。（例：一般演題発表者の約20%は大学院生（修士課程）の男性）

年齢



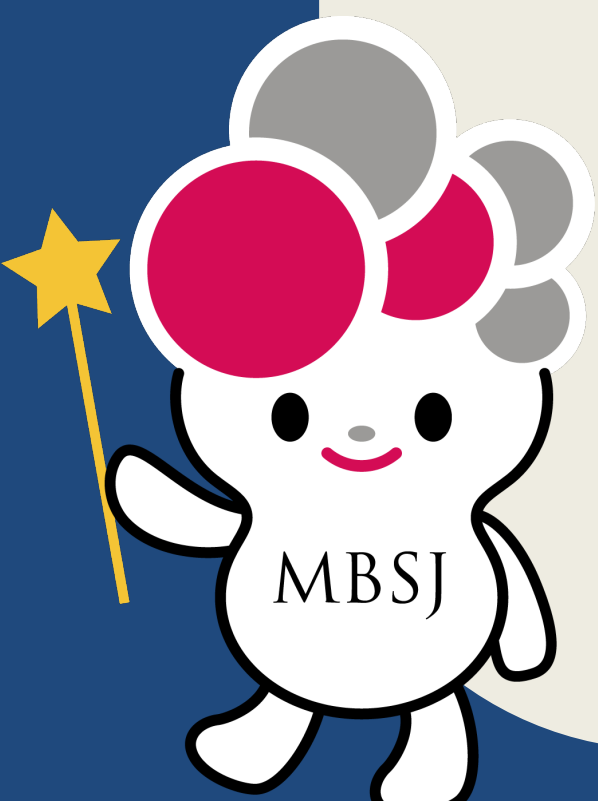
職階



第48回年会（MBSJ2025）属性調査においては4,082名が調査対象となった（のべ人数）。

年会の参加登録画面（日英）に、性別、年齢、所属、職階（身分）についてのアンケート設問を設置。ここでは演題登録を行っている、あるいはオーガナイザーリストに含まれている登録者の回答データのみを抽出し集計した。シンポジウムのスピーカーには非会員の演者を含むと共に、本年会では非会員の一般演題投稿も認めているほか、日本生物物理学会会員が分子生物学会会員と同等の資格で参加・発表できることになっており、その発表者も含まれている。また会員からの「ジェンダーマイノリティにより配慮してほしい」との声を受け、昨年に続き性別の選択肢を「女性/男性/自分で記述する（Self-describe）/回答しない」の4択（回答は必須）とした。

2009年の属性調査開始以来、上記の疑問については「その通りであった」という結果が続いていたが、近年では多くのカテゴリにおいてほぼ女性正会員の比率と同等かそれ以上の女性比率となっている。その理由の一つとして、年会主催者側によるアフターマティブアクションの試みが続けられている点が考えられる。MBSJ2025では公募シンポジウムの企画公募で募集要項に「指定演者のうち70%以上を特定のジェンダーとしないよう構成をお願いする」ことが記載された。公募シンポジウムスピーカーの女性比率は35%を超えた。今回の募集を契機に、これまでスピーカー経験の少なかった女性研究者の仕事に着目してセッション企画者が後押しするといった効果が期待できる一方、過去の年会開催後のアンケートでは、こうした年会主催者側によるアフターマティブアクションの試みに対し「理解はするが疑問が残る」といった意見も寄せられている。引き続き参加者からのフィードバックに注視していくことが重要である。



このポスターやこれまでの調査結果は学会HPでご覧いただけます

